

恵明新聞

No.112

令和3年12月1日発行

昭和天皇皇后良子女王行啓記念碑

碑文

銀も金も玉も何せむに勝れる宝子にしかめやも

山上憶良



【読み方】

しろかねもくがねもたまもなにせむに
まされるたからこにしかめやも

【現代語】

銀も金も宝石も、どうしてそれらより優れている
子ども(という宝)に宝として及ぶだろうか。
いや及ぶまい。

子ども達に信頼される大人をめざして

新型コロナウイルス感染予防のため、人と人が顔を会わせることを不要不急の場合ほしくないようにと言われて二年が過ぎようとしています。直接会って話をするのがどれだけ重要なか思い知らされました。人生の門出である結婚式を自粛し、自分達が幸せであることを多くの人に知ってもらう機会を逸してしまつたお二人はさぞや残念だったことでしょう。新しい命の誕生の場面に立ち会うことも寄り添うことも周囲は出来ず、新米パパ、ママはどれだけ不安なことだったでしょう。人生最後の時に際しても丁寧なお見送りができず、お世話になつた皆さんの皆様とお別れが十分にできませんでした。遺された私達は中途半端な思いを抱えたままです。

そんな時代の中で、児童への虐待は後を絶ちません。子どもは、存在そのものが奇跡です。そして生まれてきてくれたそれだけで、ありがたいことだと思えます。生まれてきた子ども達には生まれた意味があります。それと同時に子どもの命ははかないものです。大人の不注意や事故で簡単に失われてしまいます。そのことを社会の大人の一人ひとりが理解をし、子ども達を虐待や事故から守りましょう。大人の一人ひとりが子ども達に信頼される大人になりましょう。

今年も残すところあとわずかになりました。今年もいろいろとお世話になりました。本当にありがとうございます。来る年が皆さまにとつて良い年でありますように。すべての人が人として尊重される年でありますようにと心から祈ります。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一

山の家 だより

ボクとワタシと
方姉さん

静岡恵明学園
児童部

お地蔵様から
夕暮れ時に

私の小さい頃は、近くの山や川や道路で鬼ごっこやリレーなどを遊び、夕方になると、「ごはんだよー」という母の声が聞こえて家に帰る、という日々でした。帰る途中近所から色々な匂いがしてきて、家に着くときには腹ペコで、「たごい。ごはんは？」と言いながら帰りました。自分の子どもを育てた頃は、外が暗くなるまで遊ぶ子などあまりいなく、大体は家の中にいるか習い事に行っている子を大人が車で迎えに行く、という家が多かったように思います。

今、私のいる児童部はまるで昭和にタイムスリップしたかのような毎日です。夕方は、ご飯の時間まで外で遊び、台所のあるセンター棟から夕飯を作る匂いに、側を歩いている子達が、「今日は餃子だね」などと話しながら歩いている



と、棟の方から、「ごはんだよー」というお姉さんの声が響きます。棟に帰る途中、遠くを見ると、ちょうど駿河湾に夕日が沈みかけ、周辺の街の灯がポツポツ光っています。まるで版画のような景色です。心落ち着くひと時です。

朝、子どもたちをバス停に送る時には、子どもと一緒にお地蔵様の所に立ち寄り、「行ってきます」と手を合わせて出かけます。面倒くさそうに、バツと終わらせてしまう子もいますが、中には「加藤さん、勝已お兄さん、行ってきます」と呟きながら挨拶している子の姿も見られます。

この子たちが大人になった時、これらの風景が浮かぶことがあるのかなと思うと、この生活ひとつひとつを大切に過ごしていきたい、と思う今日この頃です。

浅田 ふみ代(保育士)

さくら の家 だより

地域小規模
児童養護施設

「おはよう」から
「おやすみ」まで

「学校に行くの面倒くさい」とそんな風に言う子に対し、皆さんはどう思いますか？

今年の6月、さくらの家が長い間慣れ親しんだ三ツ谷の地を離れ、三島市青木へ新たに移転となりました。子どもにとって布団の上が唯のプライベート空間だった生活から一転、自分の部屋にベッドがあり、足を伸ばして入れるお風呂がある、夢のような家を目の前に、子どもたちから思わ

ず「すげえ」と声が上がっていました。当初心配していた、みんな部屋に籠ってしまうのではないかと不安も、生活が始まってみるとそんなことはなく、部屋とリビングを自由に行き来し、広い空間があるのに気が付くと自然と身体を寄せ合ってテレビを観ている姿に、三ツ谷の家での名残が垣間見え、思わず笑顔になります。そんな快適な住環境を整えていただいた今、子どもたちと一緒に過ごす私

ち職員も、改めて子どもとの関わり、向き合い方を考えていかなければと感じています。「学校に行くの面倒くさい」そのまま受け取れば自分勝手なだけの発言に聞こえます。しかし、捉え方によってはこの子にとってさくらの家が「ここに居てもいいな」と思える場所になっているのでは、私は少し嬉しく感じました。年頃の男の子たちにとって、職員・大人は時に鬱陶しいと感じるような存在、それでもどんな時もそこに居て、ホッと安心できる、帰って来たいと思える場所に、新しいさくらの家と共に、私たち職員もなつて行けたらと思っています。



毎日「行ってきます」から始まり「たごい」と無事に帰って来てくれる子どもたち。そんな当たり前のように当たり前ではない幸せな日々を大切に、明日も変わらず「おかえり」と迎えられたらと思います。

蛸原 朱美(保育士)

はなみずき の家 だより

地域小規模
児童養護施設

車内での出来事

はなみずきの家へ引っ越してから、一年が経ちました。振り返ってみると、子どもたちも職員も、初めて過ごす地域、新しい環境の中で、とても頑張ってきた、頑張ってきた二年だったと思います。

色々な不安や自分ではどうしようもできない気持ちから、子ども同士のおつき合いや、職員におつき合い

もたちに、自分の心が折れることが何度もありましたが、職員間で何度も話し合い、助け合ってこまめなやり取りをこまめに行っていました。地域の方や恵明学園の職員の方々に、声を掛けていただいたり、子どもたちにも会いに遊びに来てくださったり、気に掛けていただいたり、とても感謝しています。

先日、児童部からの昼食の

食材を運搬している帰り道の車内で音楽を流して、私が歌っていると、気付いたら子どもたち六人も、一緒に同じ歌を気持ちよさそうに歌っていました。バックミラー越しにその光景を見た時に、みんな自分を出して、のびのびとできているのかなと感じて、なんだか少し嬉しい気持ちになりました。

日々の生活で感じていることや、出来事などを、話に来る姿も見られ、徐々に心を開いてくれると感じる場面が増えてきています。大切なことを教えたり、伝えていく中で、まだまだ色々なおつき



り合いが起これると思います。子どもたちの日々の頑張りを認め、気持ちを受け止めながら、自分自身も学び、今後も向き合っていきたいと思っています。

柳 美久(保育士)

児童家庭支援センター スマイルだより

里親支援
五年目を迎えて

スマイルが里親支援事業を委託されて、早いもので五年目となりました。この五年で、辛いこともありましたが、里親委託がうまく行かず、子どもが施設などに戻ることになってしまったことでも、もちろん子どもが悪いわけではなく、里親さんも一生懸命やってくれていた。でも、どうにもならず、子どもも里親さんも傷ついてしまっ。そんなことを目の当たりにした時は、支援機関として力不足とやるせなさを痛切に感じました。里親委託とは、公的な子育てであるもの、家庭で行われるかなり孤立した子育てです。施設では、チームで子育てし、困ったらすぐに相談し、交代したりすることがあります。でも、里親家庭から外に相談するというのは、ハードルが高いものであると思います。自分たちで抱えてしまうことがあるのではないかなと思います。

困った時に相談できるというのは、信頼関係があるからこそ。自分に置き換え

てみても、それは言えることです。この五年間で一番力を注いできたのは、里親さんと会う機会を積極的に作り、信頼関係を築くこと。困った時に思い出してもらえるようにすることです。ゼロから始まった里親支援事業ですが、ひとつひとつの機会を丁寧に紡いできたことが、現在に至っているなど実感しています。「いつも気に掛けてくれてありがとう」「顔をみると元気が出るよ」「聞いてもらえて良かった」「関係を築けた里親さん方から言っていたいた多くの言葉が励みになっていきます。相談してもらったこと、心の負担が軽くなり、里親さんが元気に過ごせることが私たちの願いです。」

小林 美菜
(里親心理訪問支援員)

自立へ向けて

今年も就職試験や大学受験などが始まり、進路が少しずつ決まってきました。夏頃から進路の希望を面談して聞いていく中で、驚かされたことは、一人ひとりがみんな自分の進路についてしっかり目標を持つ

相談員より

入職して3年目を迎えて、子育て支援センターでの相談業務を担当しています。新型コロナウイルス感染症拡大の後も、多くの保護者の方から相談される内容に「かんしゃくを起こした時、どうしたら良いのか」があります。

4才になったばかりの娘「お母さん、幼稚園辞めたんだけど…」と切り出した。でも、いざ施設や里親の元を出てひとり暮らしを始めてみると、確かに自由が欲しいと思っていた。でも、いざ施設や里親の元を出てひとり暮らしを始めてみると、確かに自由が欲しいと思っていた。でも、いざ施設や里親の元を出てひとり暮らしを始めてみると、確かに自由が欲しいと思っていた。

岩本 千尋
(自立支援相談員)

谷山 美佳(相談員)

わけですが、我が家では娘のエピソードとして語り継がれることとなりました。いつもはこの話を気まずそうに聞いていた娘ですが、高学年になったある日「あれは幼稚園が嫌だった訳じゃないんだ」と突然語りだしました。

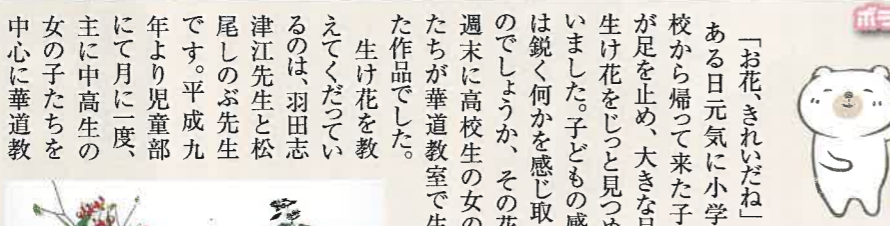
クラス替えがあることは理解していたが、なぜ先生まで変わってしまったのか納得できなかった。でも、誰も説明してくれない。「まあ、だから諦めたんだよ」と。

そんなことを考えていたのか。あのかんしゃくの理由が数年後に分かるとは驚きました。子育てはこんな答え合わせの積み重ね。そして、そのページ一枚ずつ重ねていくアルパムのようなものかも知れません。時間をかけてゆっくりと。

恵明クリスマス 中止のお知らせ

毎年十二月に三島市社会福祉会館にて開催しております恵明クリスマスですが、本年も新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とさせていただきます。

楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ありませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



「お花、きれいだね」

ある日元気に小学校から帰って来た子が足をとって来た。大きな目で生け花をじっと見つめていました。子どもの感性は鋭く何かを感じ取ったのでしょうか、その花は週末に高校生の女の子たちが華道教室で生けた作品でした。

生け花を教えてくれているのは、羽田志津江先生と松尾しのぶ先生です。平成九年より児童部にて月に一度、主に中高生の女の子たちを中心に華道教室を開催してあります。

今年も新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とさせていただきます。

楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ありませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



教室の後はティータイム。生け花についての話にも耳を傾けてくださり、時にさりげなく子どもたちの立ち振る舞いを直して下さったりと、職員一同心から感謝しております。

現在はコロナ禍ということもあり華道教室はお休みとなっております。再開されることをとても楽しみにしています。

羽田先生、どうぞこれからも子どもたちをよろしくお祈り致します。

赤ちゃんセンター

乳児部

守りたいもの



たのは児童養護施設で出会った、戦争で片腕を失った先輩でした。厳しいけれど愛情深く、先輩の作る料理は魔法がかかったように美味しく、子どもたちにはもちろん、私もお腹の底から温かいもので満たされた。先輩の指導の下、家庭と社会の両方との葛藤に傷付きながら体当たり(素直でない)と変化球)でぶつかって子どもたちを、抱きしめ見守り一緒に悩み、どんな姿になっても、温かいご飯と一緒に「おおかえり」と迎える居場所の大切さを学びました。子どもたちからも教えられることがたくさんあり、私も人へと命と向き合うことまで簡単にはならないのです。

上田 千夏(保育士)

大きい子組の小さな男の子

大きい子組八人の中で一番小さな男の子K君。でも大きい子組歴は長いK君。K君は昨年一歳一ヶ月で大きい子組に進級しました。他の子どもたちはK君よりも一歳半以上も年上のお友だちが多く、進級当初お散歩は近場でも行きは歩いて、帰りは抱っこされて帰ってきたり。でも年経った今では遠出組に選ばれしつかり歩けるようになりました。お喋りも最初はほぼ喋れませんでした。今では歌つたり保育者の話も楽しめるようになってきました。先日もカ



くられるようになってきました。先日もカ

乳児部の日常

入室すると、あつという間に、前後左右を元気がいっぱいの子どもたちに囲ま



れ、幸せサンドの出来上がり。さあ、今日もドタバタで笑顔いっぱいの日が始まります。

晴れた日は、散歩へ行き、空を眺めながら歩み、季節の花や虫を見つけて観察開始。地面に顔がくつききそうなる程、興味津々になっています。たとえ雨天だろうと、たふぶり運動出来るようにと、室内遊具を出し、思い切り身体を動かしたり、逆に、雨の日だからと、バズルや絵本でのんびり過ごしたりもします。

はつと気付くと、昼食の時間が迫っていて、また忙しく片付けをし、何を食べたのか記憶に残らない程、一瞬で食事を終えます。食後の子どもたちは、まだまだ元気。やつと午睡の時間です。ゆったりとした気持ちで

入眠に誘い、ねない！と抵抗していた子も、トントン撫で撫で、お昼寝モード。個々の寝入りの好みを理解出来ているのも、日々生活を共にしてきたからこそと思います。

子どもにとって、保育士が、心から安心出来る存在になれているのだと思うと、乳児部の保育士のやりがいや、魅力を感じるのです。

シーンとした部屋。寝顔もなんと可愛らしい。と思つたのも束の間。午睡終了と共に、パワー満タンの子どもたちが目を覚ましてきます。「よく寝たねえ。」とまた笑い合い、ドタバタな時間に戻ります。

今が大変な世の中だと、しても、乳児部では、笑顔溢れる優しい時間が過ごせます。

渡辺 美咲(保育士)

恵 明 保育園

子どもの成長

私が小さい子組さんを担当させて頂き、半年以上が過ぎました。入園当初お母さんと離れる際、涙していた子どもたちも保育園に慣れ笑顔を見せてくれるようになったと思います。小さい子組さんは今、冬令節の自然でいっぱいのお外遊びを毎日体をたくさん動かして楽しんでます。寒くなってきた外の気温にも負けず可愛い笑顔を見せてくれる子どもたち。一緒にいる私も自然と笑顔になってしまいます。子どもと一緒に遊んだり見守っている時、つまじりたりよけてしまう姿を見かけます。私がとっさに手を貸そうとすると、自分で上手に姿勢を立て直したり上手に手をつけて転ぶのをふせいだります。私が手をひいて援助をしていた子どもたちが私の知らないうちに成長していたという

気づき。小さな赤ちゃんだと思っていた子どもがそんなことができるんだという気づき。半年たった今だからこわかる成長の場面に出会い、私は感動と嬉しさ、そして驚きを感じました。

それと同時に私は保育士として成長できているのかと考えました。子どもの成長は早く、それに追いつけるように毎日努力しているつもりですが、なかなか上手にはいきませんが、私も不安に思うことも上手にいかないと、前向きにとらえることができます。子どもと共に成長できる保育士を目指し日々努力していきたいと思えます。

青木 玲奈(保育士)

子どもの姿

日に日に風が冷たくなり、めつきり寒くなってきた今日この頃。園庭に落ちているドングリを宝物のようにギョッと握りしめる子どもたち。寒さに負けず今日も楽しく遊んでいます。

私は今年度、一歳児クラスの小さい子組さんでお仕事をしています。四月半ば育児休業を終え戻ってき



た私は、不安な気持ちでいっぱいでした。そして、同じように初めてお母さんやお父さんから離れ、涙を流しながら頑張ってきた子どもたち。そんな子どもたちもお父さんお母さんに毎朝バイバイと手を振り、笑顔で登園してくれているようになりました。

小さい子組さんは一歳児といえど、上はすでに二歳になった子もいれば、まだまだ赤ちゃん感が抜けにくい



と数多くの子がいるクラスです。お話しが出来なかつた子が喃語から一語文、二語文から二語文へ、二語文から文章をお話してくれるようになってきました。

る気持ちはみんな一緒です。私は子どもたちの生懸命な姿に感動と微笑ましさを感じます。

北村 有希(保育士)

口語(お話し)

今年も実を付け、子どもたちはどんぐりの宝探しやおままごとと、いつもの年と変わらない秋の遊びを楽しんでいます。

コロナ禍も二年目を迎えました。特に第五波と言われた九月は身近な所で感染の話や聞き、保育園でも危機感をもつて様々な感染症対策の見直しや改善をしました。お預かりしている子どもさんたちの健やかな



また働く保護者の方々に、自分の不注意からご迷惑をかけてはいけないと、勤務を離れてからの行動も気を付け、家族の行動にも制限をすることもありました。幸い我が家の子どもたちは大きいので「我慢することも人生の経験」と言い聞かせましたが、保育園に通う年齢の子どもさんを持つ親御さんは辛い時期での子育て、大変な事だと思えます。

それでも赤ちゃん組の

お部屋では、「つかまり立ちに成功したよ。」「初めての歩が出たよ。」とお姉さんたちも子どもたちも笑顔いっぱい喜びを分かち合っています。そんな日常を過ごせることに感謝しながら、前向きな気持ちで保育に携わりたいと思えます。

伊沢 恭子(保育士)

今年度も半年が過ぎ、たくさんの方の成長を感じることが出来ました。すみれ組さんは、進んでお着替えができる様になりました。「終わったよ」と元氣一杯笑顔で教えてくれました。運動発表会では、練習から大はりきりでした。「今日もアンダー・ザ・シーやるんだよ」と嬉しそうに練習している姿が印象的でした。10月からは、ランチをお客だけで食べる様になり苦戦しながらも頑張つて食べています。



ふよう組さんも運動発表会を楽しみにし、竹馬やお遊戯、リレーを元氣一杯披露できました。「手は真つすぐに伸ばすんだよね」と、先生が教えてくれたことをしっかりと身につけていたり、お友だちを応援してあげたり、さすがが年長さんだなどと思うことが多々ありました。和太鼓発表会でも「カイト」を一人ひとりが楽しんで演奏している姿を思い出します。はじめてのプレイボールにも挑戦し、みんなで力を合わせて練習した成果が発揮されました。後半の半年まだまだた

木々の葉の色も変わりはじめ、肌に触れる秋風が心地よい季節になりました。初めての園生活で泣いている事が多かったつくり組の小さいお友だちも今では笑顔が増え、沢山の表情を見せてくれるようになりまし。音楽に合わせて体をゆらしながら「あーうー」と気持ち良さそうにお歌を歌ったり、名前を呼ばれると



「はーい」と手を挙げて元氣にお返事してくれました。歩くようになった子も多く、ワクワクした様子で靴を履き、園庭を歩きまわっています。つくし組の大きいお友だちは、お話しすることが大好きです。お友だちや先生の名前を覚えていたり「〇〇したい」と自分の意思を伝えたり「製作したよ」「ボールで遊んだ」と、経験したことも少しずつ伝えられるようになりまし。お友だちとの関わりの中で「こちらどうぞ」「さて、行きましょうか」など、大人の口調を真似して、思わず笑つてしまうこともあります。たんぼ組のお友だちができるようになったことが増えました。「トイレに行く」と自分で伝え排泄できるよさになったり、戸外遊び後はカバンから新



高村 結衣(保育士) ふるりと元氣いづは笑い顔あふれる毎日過ごしていききたいと思ひます。

今年度はサイバードリームであそぼうーを担当させていただいています。4月当初ははじめての英語に戸惑っていたたんぼ組のお友だちも今では元氣一杯にABCソングを歌い、楽しそうに参加しています。以上児クラスの子どもたちもサイバードリームを楽しみにして「前回は何の単語をやったか覚えてるかな？」と聞いてみると「分かる！〇〇だよ」としっかりと覚えていてくれ、新しい単語も楽しそうに発音し、クイズにも元氣に手を挙げてくれます。年長組のお友だちは普段の遊びの中でもジャンケンを英語の掛け声で楽しんでいて、身につけているんだなど、嬉しく思ひます。私は普段は、

小さい子クラスのフリーとしてつくし組のお友だちと過ごすことが多く、ミルクしか飲んでいなかった子がスプーンを片手につかみ食べができるようになったり、保育者が手伝っていた着替えも、一人でできるようになったりと、この半年間で本当はたくさん成長を見させていたいただきました。お友だち同士の間わり方も生活の中で学び「貸して！」「いいよ！」が子どもたちだけでできるようになってきました。新しいお友だちや赤ちゃんが大好きで「かわいい！」と頭をなでる姿がとても可愛く、思わず顔が緩んでしまひます。

石川 ゆきの(保育士)

恵明キッズ フヨウビレッジ



「はーい」と手を挙げて元氣にお返事してくれました。歩くようになった子も多く、ワクワクした様子で靴を履き、園庭を歩きまわっています。つくし組の大きいお友だちは、お話しすることが大好きです。お友だちや先生の名前を覚えていたり「〇〇したい」と自分の意思を伝えたり「製作したよ」「ボールで遊んだ」と、経験したことも少しずつ伝えられるようになりまし。お友だちとの関わりの中で「こちらどうぞ」「さて、行きましょうか」など、大人の口調を真似して、思わず笑つてしまうこともあります。たんぼ組のお友だちができるようになったことが増えました。「トイレに行く」と自分で伝え排泄できるよさになったり、戸外遊び後はカバンから新



今年度はサイバードリームであそぼうーを担当させていただいています。4月当初ははじめての英語に戸惑っていたたんぼ組のお友だちも今では元氣一杯にABCソングを歌い、楽しそうに参加しています。以上児クラスの子どもたちもサイバードリームを楽しみにして「前回は何の単語をやったか覚えてるかな？」と聞いてみると「分かる！〇〇だよ」としっかりと覚えていてくれ、新しい単語も楽しそうに発音し、クイズにも元氣に手を挙げてくれます。年長組のお友だちは普段の遊びの中でもジャンケンを英語の掛け声で楽しんでいて、身につけているんだなど、嬉しく思ひます。私は普段は、

石川 ゆきの(保育士)



もり 宮さんの杜通信

2021.10月号

涼しい秋風に高く澄んだ空。大きく深呼吸したくなるような気持ちのよい季節になりました。食欲の秋・スポーツの秋・爽りの秋・・・自然や味覚に触れる楽しみがたくさんあります。新型コロナウィルスの感染拡大が心配されますが、健康面には十分注意し、手洗い・うがい・消毒等に心がけ、気をつけながら楽しく過ごしましょう。宮さんの杜で会えることを楽しみにしています！

★ ちょこっとコラム ～ 本と過ごすおうち時間 ～ ★
読書を推進する行事が集中して行われる期間があり、10月27日～11月9日の2週間位が読書週間にあたります。子どもに限らず、大人も読書を楽しむ心と心が豊かになり、息抜きにもつながりますね。お母さんだけでなく、お父さん・おじいちゃん・おばあちゃんとの心の架け橋にもなります。この機会に是非、お膝で楽しいひと時を過ごしてみたいかがでしょうか。子どもにとっては、大人を独り占めできる特別な時間です。

● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



ジャじゃまる通信

2021.8

いよいよ夏本番の8月です！今年は何年と違い、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、いろいろ制限がありますが、暑い夏でも子どもたちは元氣いっぱい！夏バテしないように気を付けましょう。是非、水分補給とバランスの良い食事をとり、この夏を乗り切りましょう。

ちょこっとコラム

～夏の健康トラブルを防ぐために～

夏は、暑さのために体力を消耗します。こどものペースで過ごして疲れをとることや、こまめに水分補給をしましょう。また、衣服の調整や体調チェックなども重要になってきます。体調が悪い時には、しっかりと回復するまでゆっくりできる時間を確保し、環境を整えてあげましょう。

● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



フリッパー通信

令和3年10月

秋風さわやかな季節になりました。旬の食べ物も多くなり、梨やぶどうさつまいも、栗、サンマなど秋の味覚が満載です。こども園でも、秋のあたたかいランチメニューが増えました。ご家庭の食卓でも旬の食べ物を取り入れてみてはいかがでしょうか。今月もフリッパーでは、ソーシャルディスタンスをとりながら、親子で楽しい時間を過ごしていきたいと思ひます。

※ おやこで遊ぼうは人数制限がありますので、ご希望の方は事前に予約の連絡をお願いします。

※ 乗車の方はマスクの着用(保護者の方のみ)をお願いします。

★ ちょこっとコラム ... おやこで楽しむ読書の秋

小さい子どもたちは、身近な生活に関する絵本が大好きです。長い文章の絵本ではなくても、短い文章の絵本を繰り返し読んであげること、自分の中に取込んでいくのだそうです。また年齢とともに大きくなってくると、自然に物語の世界も楽しめるようになります。秋の夜長、おうちでのんびりお子さんと絵本を読んで、素敵な時間を過ごしてみませんか？

● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878



ローズ通信

2021.9

9月に入っても残暑でしばらくは汗ばむ日が続きそうです。引き続き、暑さ対策が必要です。これからだんだんと日が短くなって、秋の虫の声が聞こえ出します。季節の移り変わりを親子で楽しめると思います。

★ ちょこっとコラム ★～十五夜(月見団子)～
お月見の時に「これからの収穫を祈る」ということで、収穫物のお米で団子を用意したのが、月見団子の由来だそうです。お父さんと一緒に、材料をこねて、丸めて、茹でて・・・お月見団子を作ってみてはいかがでしょうか。きっと楽しい十五夜さんになりますよ。

● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

子育て支援センター

それぞれの子育て支援センターの「子育て支援センターだより」を紹介します。地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、楽しく過ごしています。今年度も楽しく利用できるよう、イベント等用意し、スタッフ一同お待ちしております。
利用日:月曜日～金曜日 10:00～16:00
子育て相談、園庭開放も随時



ぽこ通信

2021.9

今年の夏はオリンピックもあり、暑い、熱いひと夏を過ごされたのではないのでしょうか？子どもたちもいろいろなスポーツに興味をもち、体を動かすことに楽しさや喜びを感じられる良いきっかけになったことでしょうか。ぽこでも秋はからだあそびをたくさん取り入れたいと思ひますので、皆さんお楽しみに！！



★ ちょこっとコラム ★

～9月1日は「防災の日」～

災害時のために、非常用持ち出し袋を用意しているご家庭も多いと思ひます。年に一度、防災の日には、保存食が賞味期限切れになっていないかなど、中身をチェックしてみましょう。三角きんなどの救急用品の使い方も確認しておく、いざという時に慌てなくて済みます。また、災害時の家族間の連絡のとりかた、家族が合流する避難場所についても、ご家庭で話し合う機会にできるとよいですね。



● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778



2021.9

9月に入っても残暑でしばらくは汗ばむ日が続きそうです。引き続き、暑さ対策が必要です。これからだんだんと日が短くなって、秋の虫の声が聞こえ出します。季節の移り変わりを親子で楽しめると思います。

★ ちょこっとコラム ★～十五夜(月見団子)～
お月見の時に「これからの収穫を祈る」ということで、収穫物のお米で団子を用意したのが、月見団子の由来だそうです。お父さんと一緒に、材料をこねて、丸めて、茹でて・・・お月見団子を作ってみてはいかがでしょうか。きっと楽しい十五夜さんになりますよ。

● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明コスモス児童センター

異年齢の交流の楽しさ 今年こんなことやりました!!

恵明コスモス児童センター内学童クラブの今年度利用は、高学年の小学生在が例年より多く、平日の過ごし方などの計画など高学年の児童の積極的な参加が見られました。低学年の児童も安全に楽しむことができよう、高学年児童が配慮をする姿もたくさん見受けられました。

9月初めに、1人の子どもが「家を作りたい」とつぶやきました。「それいいね」「うんやりたい」との声があがった時、スタッフとして何とか実現させてあげたいという気持ちで倉庫の段ボールの廃材を用意しました。学年関係なくアイデアを出し合い、作業分担をしました。低学年の児童がうまくできなくて困っているとき、高学年が手伝ったり、アドバイスをしたり、普段の学童の過ごし方の中では見られない会話ややり取りが沢山あったようです。そしてついに、みんなで協力して素敵な段ボールハウスが出来上がりました。

「No name house」だそうです。中で横になっていたり、おままごとをしたり、本を読んだり、楽しむ姿がありました。

10月には、ハロウィンを盛り上



げるためにみんなで壁面装飾を考え、それぞれのハロウィン写真を撮りアップしました！

今、コスモス児童クラブでは高学年児童と低学年児童の上手な関係性ができつつありますが、決して偏りができないよう、個々の子どもたちの声に耳を傾け、より層の配慮をしていきたいと思います。

大塚 彩葉
(児童センタースタッフ)



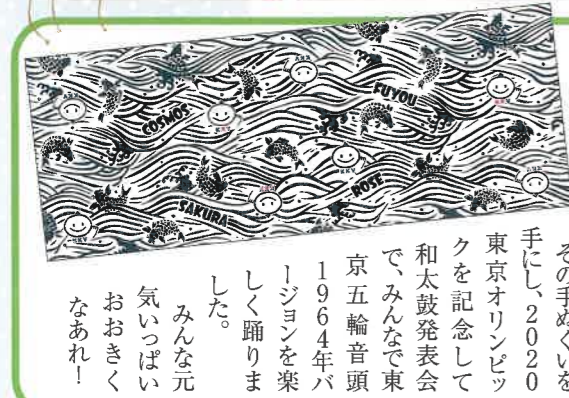
コラム

ここ2年余りの間、新型コロナウイルス感染症の猛威により世界的に日常生活が制限されました。その時に生まれたお子さんたちももう2歳になります。制限された環境の中、園でも子どもたちが各年齢ごとに経験する予定だった行事等も中止または縮小を余儀なくされました。そんな中、子どもたちの成長はとどまることはありません。環境を整備し、子どもたちを守りその成長の手助けをしていくという重要な役割にあらためて責任を感じざるを得ません。

今年度は東京オリンピックが行われました。こども園グループでは、子どもたちの健やかな成長を祈願し、荒磯模様の手ぬぐいを作りました。(波間を元気に踊る鯉・吉祥魚)をデザインした柄。鯉は龍門と呼ばれる急流を登り、やがて龍になるといふ伝説があります。

その手ぬぐいを手にし、2020東京オリンピックを記念して和太鼓発表会で、みんなで東京五輪音頭1964年バージョンを楽しみました。

みんな元気いっぱい
おおきくなあれ!



恵明キッズ コスモス ビレッツジ

いろいろなメカネ

2021年度がスタートし、早いもので半年が過ぎました。富士山にも雪化粧が見られ、肌寒くなりましたが、園庭には子どもたちの元気な声が響き渡っています。



コスモスビレッツジでは、帰りの会でお当番さんがお友だちの良い所や頑張っていたところを見つけ、発表するいいところメカネ、というものをを行っています。今



ではいろいろな角度からお友だちを見つめ、良い所や頑張っていることを認め発表できるようになってきました。名前を呼ばれた子ども頑張っていたことを見てもらえたこと、嬉しそうです。お友だちとの関わりの中で、お互いに刺激を与えあったり、共に手を取り合ったり、頑張る姿なども見られるよう

になりました。

9月、10月には運動発表会、太鼓の発表会、のどしまん大会などが行われました。入ひとりが練習の成果を発揮し、頑張る姿をたくさん見せてくれました。リレーでは2つのグループに分かれ、自分たちで走る順番を決めました。どちらのチームも勝ちたいという作戦を立て、練習を重ねてきました。勝つ嬉しさ、負ける悔しさ、お友だちと一緒にがんばることの楽しさなど、たくさん学ばせていただきました。遅くなったなと感じました。



様々な行事や日々の生活を通して、大きく成長したコスモス組さん。残りの行事も限られてきましたが、子どもたちの挑戦する力、やればできるの気持ち、成長を見守っていききたいと思います。

遠藤 舞(保育士)

子どもたち

新年度がはじまり半年が過ぎました。日増しに風が冷たくなるとともに空が高くなり秋らしい季節になってきました。澄んだ空気をいっぱい吸い込んで秋の空を駆け回る子どもたち。最近ではバツ探りに夢中になっている姿が見られます。「先生！バツ

笑顔の毎日

提案したりしている姿を見ると子どもたちの成長を感じます。

子どもたちと一緒に笑って一緒に考え学んでいく。そんな日々を楽しみながら一人ひとりに寄り添い見守り、大切にしていきたいと思っています。

上野平 薫(保育士)

園庭の木々も葉を落とし、今年も折り返しの時期になりました。子どもたちは寒さを吹き飛ばすかのように元気一杯戸外遊びを楽しんでいます。

4月当初、新しい環境になれず、泣く事が多かったつづく組さん。今では笑顔で過ごす事が多く、お友だちと一緒に同じ事をして遊ぶ事や、手をつないで歩く事ができたり、絵本も落ち着いて聞けるようになり、大きな成長が見られるようになりました。中でも、今まで甘える事がなかった子が、自己主張できるようになり、甘えてきてくれた事を嬉しく感じました。毎日一緒に過ごす事で信頼関係が築かれています。つくし組さんは自分の気持ち上手に伝えられない年齢だからこそ、しっかりと子どもを見て、子どもたちの



心の動きを見落とさないようにしていきたいと思えます。

また、私は子育てで支援センター「ほこ」のお手伝いをしていきます。季節によって楽しめる活動をしていきます。製作や遊びの中でお家の方との話が広がったりと、楽しく遊んでいる姿を見ると、お家の方だけにしか見せない姿が微笑ましく、親子の信頼関係を感じています。

堀江 知美(保育士)

子で過ごす時間を「楽しかった」と言ってくれてもらえる活動のお手伝いができたらと思っています。

私は乳児期の大切な時期を一緒に過ごせる事を嬉しく思っています。今後は、日々の保育の中で、子どもたちや地域の方と実のある時間を過ごしていけるよう、私も子どもたち同様成長していきたいと思っています。

恵明キッズ サクラ ビレッジ

はじめての作品！

製作が好きなくし組のお友だち。作品展では紙粘土に触れる体験をしました。まず、やわらかい粘土を握り形を作りまし。慣れない感触におそろおそろ触ろうとする子。おもしろそうな素材に興味津々で手を伸ばす子。それぞれの楽しみ方で製作に取り組みました。

指スタンプなどの手先を使う作業には集中して取り組んでいました。手に絵の具をつけ模様や目・鼻を描くことは楽しいよう



で、上手に絵の具を作品につけては嬉しそうにしました。初めて絵の具に触れ抵抗のあったお友だちも、今では楽しいことだと知り、積極的に手を伸ばす姿が見られます。

成長と共に色の好みも少しずつできました。色を選択する時には毎回黄色を選んだり、「ピンクがいい」と主張をしたりするようになりました。まだ色と色の名称が一致しないことも多いのですが、お気に入りの色があるようです。

作品展の入り口を飾るためのペットボトル製作では、中に花紙を詰めてきれいに装飾しました。たくさん色の花紙の中からどの色がいいか聞くと、指をさして選ぶ子もいれば「みどりがいい」とお話しして答えてくれる子もいました。

一枚ずつ指を細かく動かしながらペットボトルの中に詰めていきます。キャップを閉めて完成すると、カラフルになったペットボトルを嬉しそうに持ち振り振ったっていました。

園生活の中で少しでも



多くの素材に触れ、感触を知り、経験を積んでいきたいと思えます。安全に楽しく製作に取り組めるよう、これからも配慮したいと思えます。

室伏 菜月(保育士)

頑張り！さくら組

隣接する上岩崎公園から色とりどりの落ち葉が無い落ちてきます。子どもたちは落ち葉を使って絵を描いたり、砂場でお料理をしたりと秋を感じながらお外遊びを楽しんでいます。

コロナ禍で普段通りの生活が難しい部分もありますが、対策をしながら自園で運動発表会をしたり、コスプレビレッジで太鼓の発表をしました。一つ一つ、行事を終えたと成長した姿を見せてくれる子どもたちは、より頼もしくなりました。芸術の秋

という名の通りさくら組さんは今、のど自慢大会に向けての練習や、作品展に向けての製作に取り組んでいます。のど自慢大会をすることが決まり、自分の歌う歌を決めました。園長先生より発表がある「緊張するね」と話していた子どもたちでしたが、練習を重ねるたび、少しずつ声が出るようになり、落ち着いて歌を歌えるようになってきました。本番に向けて一生懸命に練習に励んでいます。また、今年もオリジナルの「さくら組」の衣装を作りました。各クラスがオリジナルの衣装を紙粘土で作り、各国の民族衣装をモチーフに洋服を作っています。「今日は製作する？」「順番が来るかな？」と製作を楽しみに取り組んでいます。

残り半年となったさくら組さんのことも園生活。子どもたちの会話に小学校の話題も出るようになってきました。いろいろな経験を通して、楽しい思い出をみながらたくさん作ってほしいと思います。

長島沙知子(保育士)

日々の成長

「今日はいっぱいおかわりしたよ。美味しかったよ」と、とびきりの笑顔で報告に来てくれる子どもたち。

学年が一つ上がったばかりの四月はなかなか給食を最後まで食べきれなかつたり、食べるのがゆっくりでランチの時間に間に合わなかつたり、そんな子どもたちをたくさん見かけました。そんな時期から早半年が経ち今ではほとんどの子どもたちが時間内に食べ終わり、おかわりも出来てしまうくらいに成長しています。

新型コロナウィルスの



影響で、毎年子どもたちが楽しみにしていた様々な行事が昨年引き続き中止となっています。保護者の皆様に、子ども園での成長した姿を見せる場面が少なくなりましたが、日々の生活の中で子どもたちは確実に成長しています。そんな子どもたちの成長する過程に携わっていることを私自身非常に嬉しく思います。

今までのランチやおやつ時間は、すみれ組・ゆり組・さくら組の三クラスが一緒に食べていました。しかし感染予防のため、時間を二つに分けて食べるスタイルに変わり、食べる順番はなるべく喋らず静かに、終わったらすぐマスクを付けるなどの対策をとりながら給食を食べています。先生のお話をしっかりと聞き約束を守っている子どもたちの姿もまた、成長だと感じます。

一刻も早くコロナウィルスが収束し、たくさんのお友だちと一緒に向かい合ってお話をしながら食べる楽しいランチやおやつが間に戻ってほしいと願うばかりです。

これからも保護者の皆様と共に子どもたちの成長を見守っていきたく思います。

帯金 真奈(栄養士)

恵明キッズ ローズ ビレッジ

ハッピースマイル

園庭のハナミズキの葉が紅く染まり始め、過ごしやす季節となりました。「先生、これ見て」と可愛い手の中から出てきたのは秋の代表、栗。「一緒に柵へ飾ると、ローズビレッジの玄関が一気に秋色となり、みんな季節の変化を楽しんでいます。」

四月から半年が経った今、朝の玄関では「おはようございます」と自信に満ちあふれた元気な挨拶がたくさん聞かれます。「一緒に来よう」と笑顔でお友達を誘う姿、「先生、あのね」と嬉しそうにおう



ちでの出来事を話す姿。小さな手でぎゅっと私の手を握りニコニコでお部屋へ向かう姿など、頼もしい姿や可愛い笑顔が多く見られるようになりました。中には、おうちの人と離れたくなくて泣いてしまったり、不安な表情のお友だちもいます。けれど、気持ちに寄り添いつつ少し様子を見てみると、「お部屋に行つてくる」と元気な表情に行つてくる。

四月に比べると、気持ちの切り替えが早くになりました。楽しい気持ちで一日がスタートできるよう、自分から行動できるよう、見守りながらサポートしていきたく思います。

降園時「〇〇さんお迎えです」名前を呼ばれると玄関に駆け寄り、喜ぶ姿や表情は、喜びと安心感でいっぱい。その最高な笑顔「ハッピースマイル」を見ると私も幸せな気持ちになります。

園での一日の始まりと終わりを迎える玄関で、一人ひとりの子どもたちやおうちの方と関われる



時間が楽しみに、ハッピースマイルでお出迎えしていきたくです。

杉本裕美子(保育士)

心身ともに育っています！

秋が深まる中、園庭の芝生は青々と茂っており、その上を子どもたちが元気に駆け回っています。すみれ組の子どもたちの絆も日に日に深まっています。みんなお友だちのことが大好きで、今では名前を呼び合い楽しそうに遊んでいます。これまでは、ただ自分のことだけで精一杯だったのが、周りのお友だちのことを気に掛け、助言の言葉を掛けたり、励ましているお友だちを手助けする姿も見られるようになってきました。すみれ組の〇〇ちゃんは、半年が過ぎた頃から保育者の側を離れ、自発的に活動する

ことが多くなってきました。子どもの育ちはそれぞれペースが違うもの、〇〇ちゃんのようにゆつくりなお友だちもいます。今までは不安でいっぱいだった心が、安心感でいっぱいになった〇〇ちゃん等、子どもたちの心の成長に出会う度、心も育つているのだと実感し、温かい気持ちになります。

先日行われた運動発表会では、どのクラスも練習の成果を発揮し、たくさんのお友だちが「頑張ったよー」と達成感を味わったようでした。頑張った練習をしたから出来たという過程がとて素晴らしく、自信に繋がっていくのだと思います。

できたという自信の花がまた心に咲いた子どもたち、これからどんな花を咲かせるのか楽しみです。光となり、水となり、土となり、子どもたちの心の成長のお手伝い

新しい生活様式とマスクをつけて...

「新しい生活様式」としてすっかり保育現場に定着してしまったマスク。まさか今年の夏もマスク生活になるとは思わず、戸惑いの日々が続いています。今年度も看護師として、小さなお友だちと過ごす日々。成長を見守りながらも、可愛い笑顔に癒され充実した日々を送っています。

赤ちゃんは、毎日、喜怒哀楽を「顔」で学ぶといわれています。いろいろな人の顔や、その動きを見て表情を学び、これがのちに相手の気持ちを理解する能力の土台となっていくと。「目は口ほどに物を言う」とは言っても、目だけで表情が通じ合うのは大人の世界。子どもたちは表情の中のたくさんのお友だちの表情、感情を理解していきます。マスク生活により



が出来たらと思っています。

田代 香代(保育士)

「表情」を伝えるに毎日。それでも声にメリハリをつけたり、目元眉毛を動かしたり、体を使って表現したり、子どもたちにもこちらの気持ちや伝わるような保育を心がけています。

また、私たちの顔がマスクで隠れているからこそ、マスクをしていない子ども同士ふれあいをチャンスととらえ「〇〇ちゃん嬉しかったね」「哀しい顔しているよ」「お友だちはどんな気持ちかな」など、感情を

読みとることに意識した声かけをしています。今までも何気なく使っていた言葉ですが、言葉・感情を勉強強中の小さなお友だちにとっては大切な言葉であり、私たちはその重要な橋渡し役であると痛感します。

これからも、心身ともにすこやかな子どもたちの成長を願い、ご家族の方と共に、可愛い笑顔を守っていきたく思います。

加藤 寿恵(看護師)



新型コロナウイルス感染症対策のため、園では様々な工夫をし、また、保護者の皆様のご協力のもと、元気いっぱいにご過ごすことができました。

とりわけ今年の夏は、東京オリンピック・パラリンピックの開催がありました。こども園でもみんなの記憶に残るようにオリンピックに因んだ題材を取り入れました。

前代未聞のコロナ禍でのオリンピック開催でしたが、実際にオリンピックが行われ、沢山の選手が日本で競い合ったという立派な歴史を子どもたちの心に少しでも残すことができればと願います。



WITH 東京オリンピックゲームテーマソング
東京オリンピック音頭
カイト (2020 東京オリンピック応援歌)



令和3年度三島市社会福祉大会において
三島市社会福祉協議会会長表彰!

2021年11月9日

恵明キッズサクラビレッジ	園長	杉村太陽
恵明コスモス児童センター	センター長	脇 雅秀
恵明キッズサクラビレッジ	保育士	杉村みなみ
恵明キッズサクラビレッジ	保育士	六車彩香
恵明キッズコスモスビレッジ	保育士	澤真沙希
恵明キッズコスモスビレッジ	保育士	輿水久美
恵明キッズコスモスビレッジ	保育士	遠藤 舞

表彰
おめでとう
ございます

令和3年度 社会福祉大会